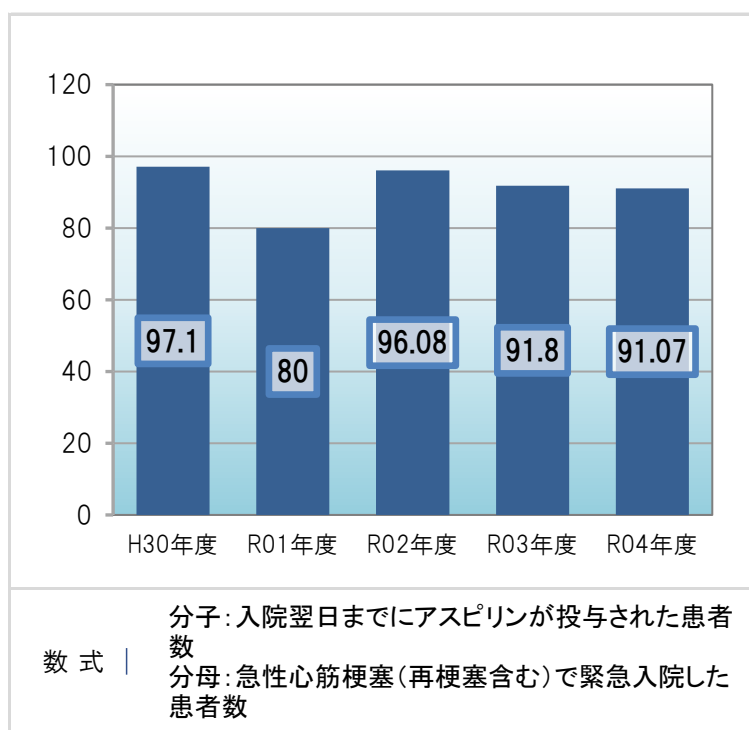


10 急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率

● 項目の解説

急性心筋梗塞の治療は、血管カテーテルの技術と材料の開発が進み、侵襲の大きな外科治療から、患者の負担が少ないカテーテル手術へと変遷してきました。しかし再び心筋梗塞を起こさないための予防は必要です。予防薬としてはアスピリンという血を固まりにくくする作用を持つ薬が有効で、この薬の投与は急性心筋梗塞の予後を改善させるため、標準的な治療の一つとされています。急性心筋梗塞でどのくらい標準的な診療が行われているかを表現する指標といえます。

● 当院の実績



単 位 | 割合 (%)

期 間 | 年間

備考

アスピリン禁忌例や、意識状態が悪くて服用ができないなどの例もあり、必ずしも100%にはなりません。

令和4年度国立大学病院平均値 86.90%

● 定 義

DPCデータを元に算出した、急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率(%)です。

分子: 入院翌日までにアスピリンが投与された患者数です。

分母: 最も医療資源を投入した病名が急性心筋梗塞の患者で、且つ緊急入院した患者数※緊急入院に限り、再梗塞を含みます。